

もりふれ倶楽部通信 NO. 19

春一番 が吹きました



NPO 法人もりふれ倶楽部
理事長 榎原 道夫

先般の春一番は、4月の陽気をもたらし、梅の蕾をいっしょに開かせてくれました。沈丁花も蕾を膨らませ、間もなくあのふくよかな匂いを漂わせてくれるでしょう。と思ったのもつかの間、今度は吹雪の寒さがやってきました。日ごとに日長が長くなり、さくら前線も少し早まるのではとも噂される昨今ですが、寒暖の差が激しい今年の冬の特徴を物語る三寒四温の変化で、体調の維持管理が非常に難しく新型のインフルエンザの流行がないことを祈るのみです。

昨夏の酷暑で花芽の形成が例年になく多く、花粉量もたっぷりのスギがふるさと森林公園周辺にも多く見られます。また、道路等の側面に植えられているヤシャブシも多数の花を付け、これらが一斉に花粉を春風に乘せて撒き散らします。これが、黄砂と一緒にあってアレルギー体質の人にとっては、目が血走り、鼻が赤く腫れ、鼻水ずるずるの地獄の苦しみを味わう季節にもなるわけです(私も高齢化に伴い目コリ鼻ズル体質になってしまいました)。しかし、草木は柔らかな新芽を開き、長日性の花芽を膨らませ、森林公園の随所を花で飾ってくれる季節がまもなくやってくることは間違いがありません。

7～8千万年？前に地球の中から噴出したマグマによる造山運動によって出来た中国脊梁の花崗岩を中心とした山塊が、風化し真砂土となって流下堆積して出来たといわれる出雲平野、そこに住む人々の暮らしぶり、出雲空港の飛行機の発着の様子、宍道湖、出雲北山等々の絶景の展望ポイントを随所に持つ ふるさと森林公園、のどかな雄大な眺め、ヤマタノオロチ伝説、国引き神話の世界に思いを馳せ、悠久の歴史を想像することが出来る公園であることの存在価値は非常に高いものがあります。さらに、「自然に親しみ 自然に学ぼう」をキャッチフレーズにつくられた森林学習展示館をはじめ諸施設、野鳥の森、生産の森、健康の森、湿地性樹木園や薬木園等々の、それぞれの思いをこめたゾーンが広がり遊歩道をめぐりながら森の持つ様々な機能を学び、新鮮な空気を味わい、樹木を眺め歩くのも健康な身体作りには最高です。



ウォーキングで公園の中を歩き回っておられる方を良く見かけますが、時には立ち止まって木々の姿や森の様子をじっくりと眺めていただきたいものだと思いますし、そうしていただける仕掛けを造らなければならないかと思えます。

目に優しい葉の緑、酸素をたっぷり含んだ新鮮な空気、ふくよかな樹木の香りが漂う清潔感みなぎる中で、ベンチに座し、あるいは寝っころがって、単行本を半分まどろみながら読みふける幸せを満喫できる森林になって欲しいなと思ったりします。

こんなふるさと森林公園の維持管理の手伝いをするNPOもりふれ倶楽部の存在が、やっと県民の皆さんに認識されるようになって来ました。会員をはじめ興味を持ち訪ねてくださる皆様のお蔭です。皆様の森に対するいろいろな思いを是非聞かせてください。また、森づくりに対する情熱を引き続き宜しく願いいたします。

県立の森林公園ですから、たくさんの県民の皆さんに如何に有意義に利用していただける森にするか、人々の示す森林公園に対するイメージをどれほど満足させることが出来るか、しかも樹木の生長のことを考えると10~30年先をイメージしたビジョンが必要です。それをもとにランドデザインを描くことは至難の業であります。公園の管理をする立場であれば、常に頭に置かなければならないことだろうと思えます。

皆様の一層のご支援とご協力を宜しく願いいたします。



「木の家の良さ」



NPO 法人もりふれ倶楽部 理事
1級建築士 中村 正志



「木の家」とは

「木の家」とはどのような家のことでしょうか？

柱やはりが木でできた家？それともインテリアが木でできた家？

住宅の広告に、よく「本物の木の家」などの表現がありますが、何を基準にしてそうしているのかはよくわかりませんし、公の決まり事もないのです。でも一般的には、「木の家」は良いと認識されているから、このようなコピーになることは理解できます。

それでは「木の家」の何がどう良いのでしょうか？

「木の家」の素材としての木材の評価法について、小原二郎博士はその著書の中で『木を取り扱ってしみじみ感ずることは、木はどんな用途にもそのまま使える優れた材料であるが、その優秀性を数量的に証明することは困難だということである。なぜなら、強さとか、保温性とか、遮音性とかいった、どの物理的性能をとりあげても、木はほかの材料に比べて、最下位ではないにしても、最上位にはならない。どれをとっても、中位の成績である。だから優秀性を証明しにくい、というわけである。

だがそれは、抽出した項目について、一番上位のものを最優秀だとみなす、項目別のタテ割り評価法によったからである。いま見方を変えて、ヨコ割りの総合的な評価法をとれば、木は上下に偏りのない優れた材料の一つということになる。……総じて生物系の材料というものは、そういう性質を持つものようである。』と述べています。モノとしてのこのような評価とともに、循環する資源としても大切です。

自然の中から誕生したヒトは、500万年のほとんどを自然環境の中で過ごしてきたので、自然素材に親しみを感じるといわれますが、木の持つ様々な特性を五感で感じることのできる家が「木の家」ではないでしょうか。あなたも「木の家」について考えてみてください。



木を使うために

私が木材に興味を持ったのは、25年ほど前のことです。その頃の建物は住宅のほかは、仕上げ材として木材はほとんど使用されていませんでした。内外装は無機質な新建材であふれており、とても人が生活する空間として、人間の感覚になじむものとは思えません。設計という立場で建築に関わっているものとして問題を感じていました。

そんな30歳を過ぎた頃、設計事務所を辞めて職業訓練校の木工科で1年間、木材の加工や、家具の設計・製作を学びました。熱心な先生の指導で、ものづくりの楽しさにあらためて気づかされ。その後、木を使ったモノづくりに取り組むことになりました。そこで、無垢の木を素材としての家具づくりや、木造の家づくりのために木の原木（製材する前の丸太）を探して、中国山地沿いの街の製材所を歩き回りました。そんなことがあって樹の生育場所である森林についても関心を持ったのですが、当時はまだあちこちに小さな製材所がありました。現在、木材の自給率は20%程度になり、地域の製材所も数を減らしています。そして、国産材を使いたいと思っても、どこへ行ったら手に入るかも消費者にはわからなくなっています。

しかも、木があればすぐそれを使えるわけではありません。木を使うためには、使う技術が必要です。いま家を建てようとする時、ほとんどの人は住宅展示場のモデルハウスを見学するのではないのでしょうか。でもそこに「木の家」があることは稀です。工業製品と違って品質が一定せずまちまちで、あつかいにくく、手間のかかる木材は、ハウスメーカーにはあまり好まれないからです。

少し前まで、住まいは地域に住む職人達のつながりで、つくられていました。そこには木を使う技術の伝承があったのです。大工の棟梁は単なる職人ではなく、相談者として、まとめ役として、技術の伝承者として、地域に密着した存在でした。そのような家づくりのシステムが消えかけています。

国産材を使うことの重要性が指摘されますが、そのためには木材の山側からの供給のシステム、まちの家づくりのシステムをもう一度作り直すことが必要なのではないのでしょうか。それとともに、消費する側も木について、木を使うことについて、学習することも大切なことだといえます。

最後に、宮大工の家に伝わる口伝を紹介します。

『塔組は 木組み
木組みは 木のくせ組み
木のくせ組みは 人組み
人組みは 人の心組み』



平成20年度 もりふれ倶楽部の歩み

12月13日 里山ものづくり体験

ふるさと森林公園学習展示館来館者の希望者に対して、「竹のクリスマス灯明」づくりの指導をしました。指導 岡田邦博 ボランティア 島大生2名

12月14日 美しい森づくり推進運動事業

「美しい森づくり推進運動」の一環として、大田市のおすてらすで、大田市のNPO法人緑と水の連絡会議、益田市のNPO法人アンダンテ21とともに『シンポジウム「美しい森林づくり・しまね」森づくり活動から』を実施しました。講師：田中賢治、和田譲二、吉田篤志、野田真幹他。尚、午前中は「竹の健康診断」バスツアーが実施されました。

12月20日 しまね冒険ワールド対応

くにびきメッセで開催された「しまね冒険ワールド」において、「コケ玉」づくり体験の指導と、もりふれ倶楽部の活動紹介を実施しました。約50名が体験されました。指導 伊原千里、宮崎徳子



12月21日 自然観察会

ふるさと森林公園において自然観察会を実施しました。雨でしたが、雨ならではの出会いがありました。指導 中村正志

12月22日 NHK取材対応

NHK総合において、平成21年1月5日(月)11時40分から放送される「昼前しまねっ」との「春の七草」をテーマとした番組制作に、企画段階から協力させていただきました。

協力 榎原道夫、石川功、小林玲子、野田真幹、宮崎徳子

1月11日 第10回里山自然塾

「七草を学び食べてみよう～正月の伝承文化」

春の七草について実物を見ながら学びました。大雪のため七草の採集には出かけられなく残念でしたが、事前に採集した七草を細かく刻んで玄米のおかゆに振りかけて食べました。とてもおいしかったです。また、七草の薬効や出雲の各地域の伝承についても学びました。

講師 榎原道夫 スタッフ 中村正志、国井加代子、野口朱美、横山直人



1月11日 とんどさん

NPO法人もりふれ倶楽部では、宍道湖西岸森と自然財団とともに、ふるさと森林公園でとんどさんを開催しました。大雪にもかかわらず30名程度の参加者がありました。

事務局対応

1月12日 里山自然塾サポーターズクラブスキルアップ研修

ハゼの実からロウソクをつくりました。以外とたくさんできて感動しました。

講師 中村正志

1月13日 学校林を活用した森林環境教育促進事業

緑の募金を利用して、安来市立布部小学校5年生に対して、山林の模型を使って「森林の大

切さ」を伝える授業を実施しました。 事務局対応 模型協力 竹田正彦



1月14日 学校林を活用した森林環境教育促進事業

緑の募金を活用して、安来市立布部小学校5年生に対して、ヒノキの和紙づくり体験の授業を実施しました。 事務局対応

1月18日 里山自然塾サポーターズクラブスキルアップ研修

～炭をテーマとして～

ドラム缶炭窯による炭焼き体験と花炭づくり、また、炭焼きに関する知識も学びました。

講師 洲浜寿晴

1月22日 学校林を活用した森林環境教育促進事業

緑の募金を活用して、安来市立布部小学校5年生に対して、間伐材の選木、間伐、造材、枝打ちの林業体験の授業を実施しました。 事務局対応



1月23日～24日 里山生活塾2009冬の巻

NPO 法人もりふれ倶楽部では宍道湖西岸森と自然財団とともに、ふるさと森林公園において、里山生活塾2009冬の巻を実施しました。大阪からを含む、県内外からの参加者が、「暖」をテーマに「1日限りの竹工房の開設」「里山夕食会」「ドラム缶窯の炭焼き」「花炭づくり」「竹筒ごはんづくり」「焼き芋」「チェーンソーの安全な使い方とメンテナンス」を体験されました。

講師 響繁則、野田真幹

1月24日 島根県職員文化祭対応

島根県県庁・松江地区職員文化祭において、活動紹介とともに、竹ランプづくり、木切れの動物づくり、クロモジの爪楊枝作り体験指導を実施しました。約60名が体験されました。

指導 岡田邦博、松本尚子、宮崎徳子

1月25日 自然観察会

ふるさと森林公園において、自然観察会を実施しました。大雪のため、参加者は少なかったですが、アオゲラ、アオバト、ツグミ、ヒヨドリ、マヒワなどの野鳥も見ることができ、カラスやイノシシの足跡も発見できました。 指導 中村正志



1月27日 島根県指導林家・青年林業士研修会

「平成20年度島根県指導林家・青年林業士研修会」において、事務局長の野田真幹が、「森林環境教育の実践について」というテーマで講演しました。 事務局対応

2月1日 第11回里山自然塾

～どんぐりをおいしく食べてみよう！～

動物の冬眠に備える食の代表であるどんぐりについて学び、どんぐり豆腐づくりの実演や、どん

ぐり団子づくり、煎りどんぐりを作って、クロモジ茶を飲みながら試食しました。参加者の方たちから、初めて食べて感動した、とても美味しかったなどの感想を頂きました。

講師 中村正志 ボランティア 竹下健二、野田あや子



2月9日 BSSラジオ番組生出演

NPO法人もりふれ倶楽部では、午前10時10分、BSSラジオ番組「ご近所わいど今日もハレルヤ」で事務局長の野田が、スタジオ生出演で“もりふれ倶楽部”の活動状況をご紹介させていただきました。このコーナーでは、8回にわたり、島根・鳥取両県の森林保全に係わる8団体が登場します。また、もりふれ倶楽部からのリスナーへの「森のめぐみ」プレゼンを、8回にわたり提供させていただきました。事務局対応 プレゼント協力 竹田正彦、岡田邦博

2月9日 子育て支援スタッフ交流会 in と東部」対応

いきいきプラザで行われた「子育て支援スタッフ交流会 in 東部」において、「もりふれ倶楽部の活動とネイチャークラフト」に関して、事務局長の野田が報告をさせていただきました。

事務局対応

2月11日 美しい森づくり推進運動事業

「美しい森づくり推進運動」の一環として、益田市グラントワにおいて、NPO法人アンダンテ21、NPO法人緑と水の連絡会議と共同主催で、『シンポジウム「美しい森林づくり・しまね」森づくりの現場から』を開催しました。約50名が参加しました。午前には、高津川を巡る環境保全活動のバス視察が実施されました。講師 田代信行、和田譲二、田中賢治、野田真幹他

2月21日 緑の募金講演会

「土壌から考えた森の健康」と題して、国土防災技術株式会社緑化事業部長、田中賢治氏の講演会を開催しました。事務局対応

2月21日 美しい森づくり推進運動事業

「美しい森づくり推進運動」の一環として、ふるさと森林公園学習展示館において、NPO法人アンダンテ21、NPO法人緑と水の連絡会議と共同主催で、『シンポジウム「美しい森林づくり・しまね」森づくりの現場から』を開催しました。また、同時に、薪ストーブや北欧式丸太ストーブ体験、間伐材の和紙づくり体験、竹や木の工作コーナー等、森とのふれあいコーナーも開設されました。講師 宮崎照、吉田篤志、和田譲二、野田真幹他 体験コーナースタッフ 竹田正彦、岡田邦博、響繁則、福岡茂明、松本尚子、槇原道夫、中村正志、野田あや子



2月22日 自然観察会

雪解けの遊歩道で、春の足音が聞こえ始めました。

指導 中村正志

2月22日 森林ボランティア「チェンソーメンテナンス研修」

チェンソーの目立てからメンテナンスまでを専門家から学びました。

講師 伊藤雅和（西部共立エコー） 生田遵一（共栄機材）



2月26日 奥出雲町布勢公民館対応

奥出雲町布勢公民館からの要請で、布勢地区住民を対象に「苔玉づくり」の体験指導を行いました。参加者の皆さんも、これまで、苔玉を見ることがあっても、どうして作るのかわからなかったけど、今回基本を教えていただいたので、これから自分で作れると大喜びでした。

指導 伊原千里、宮崎徳子

「木づかい」名刺キャンペーン開催中

もりふれ倶楽部、今後の予定

- 3月7日(土) 森林ボランティア活動 植樹 県立江津少年自然の家
「環境家計簿キャンペーン」の一環として、葉っぱに絵が描けるタラヨウの植樹をします。誰でも参加できます。参加無料。事前申し込み不要。
集合 自然の家正面玄関前 13時30分(現地まで10分程度歩きますので、時間厳守をお願いします。) 16時終了予定
- 3月8日(日) 自然観察会 ふるさと森林公園
今年度最終回です。春の足音をしっかりと感じましょう!
集合 9時30分 参加無料。前日までに事前申し込みをお願いします。
11時30分終了予定。
- 3月8日(日) ふるさと森林公園ボランティア 巣箱の修繕
集合 13時 学習展示館 参加無料。前日までに事前申し込みを行います。
野鳥の森の巣箱の掃除とメンテナンスをします。
15時終了予定。
- 3月14日(土) 森林ボランティア活動 植樹 ふるさと森林公園
「環境家計簿キャンペーン」の一環として、紅葉の森をつくるため、コハウチワカエデの植樹をします。誰でも参加できます。参加無料。事前申し込み不要。
集合 学習展示館ロビー 10時(現地まで移動しますので、時間厳守をお願いします。) 12時終了予定
- 3月15日(日) 里山自然塾サポーターズクラブスキルアップ研修「木の香り」
学習展示館停電のため、延期されたメニューです。木の香りに関して学び、竹で木のおい箱を作ります。要サポーター登録(無料)
10時~15時 参加無料。3日前までに事前申し込みをお願いします。
- 3月20日(金) 森林ボランティア活動 植樹 海士町金光寺山
「環境家計簿キャンペーン」の一環として、どんぐりと紅葉の森をつくるため、クヌギ、ウリハダカエデの植樹をします。誰でも参加できます。参加無料。事前申し込み不要。
集合 都市農村交流センター前 10時 12時10分終了予定

詳細に関しては、もりふれ倶楽部 野田・宮崎まで、メールまたは電話でお問い合わせください。

もりふれ倶楽部では、新年度からの会員を募集しています。入会金千円、年会費2千円です。森林を含めた地球環境をいっしょに守って行きましょう!



もりふれ倶楽部会報

NO. 19

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352 ふるさと森林公園学習展示館内

もりふれ倶楽部

TEL(0852)66-3586

FAX(0852)66-3586

メール morifure@coffee.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.morifure.jp/>